

津山きびの会 現状と課題



会創設15年になるが、ひきこもり当事者と家族の困りごとは、深刻化している。

公的相談機関や病院とうまくつながらない、家庭内での暴力、家族・当事者は、高齢化しているなどである。家族会が持続可能なための居場所への経済的支援とピアサポーターが活躍できる素地を作ることが課題である。

事例

1・昨年から居場所トトロの家は、家族間の問題で家を出ざるを得ない人達に宿泊利用されることが多々あった。子どもからの暴力は、一時的な状態である。かつて私も家に居場所をなくし、しばらく家を出た。落ち着いた環境を取り戻すための一時避難場所でもある。その後行政機関とつながり家庭に変化が起きつつある。

2・近郊のひきこもり宿泊対応の施設に居住する若者が、家族相談日に一人で来られた。

人の中に入ることが苦手という20代の若者は、人生曲線というワークに参加し、ひきこもりを体験した若者とそれぞれの過ごしてきた道りを語り合った。不登校や、病気でひきこもったマイナス人生をほんのわずか立ち上がった時の自分の勇気を見つけたようだった。

4日後の若者の日に再び来られ、実家に帰り農業をすることにしたと気持ちを伝えに来た。

動き出すタイミングに出会えた喜びを感じた事例である。(K・K)

「ひきこもり地域支援センター」とは？厚生労働省が、ひきこもりに特化した専門的な第一次相談窓口としての機能を有する「ひきこもり地域支援センター」を都道府県、指定都市に設置し運営する事業です。

このセンターは、ひきこもりの状態にある本人や家族が、地域の中でまずどこに相談したらよいかを明確にすることによって、より適切な支援に結びつきやすくすることを目的としたものであり、本センターに配置される社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士等ひきこもり支援コーディネーターを中心に、地域における関係機関とのネットワークの構築や、ひきこもり対策にとって必要な情報を広く提供するといった地域におけるひきこもり支援の拠点としての役割を担うものです。ひきこもりに悩むご家族やご本人は、お住まいの都道府県や市のサイトをご覧ください、窓口で連絡をしてみたいでしょうか。

地域支援センター (岡山県精神保健福祉センター) 086-224-3188

Q1. ひきこもりとは？

「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて家庭にとどまり続けている状態」のことを指します。(厚生労働省の定義より)

ひきこもりは「病名」ではなく「状態」です。

Q2. どうしてひきこもりになる？

成績の低下、受験の失敗、職場不適応、障害、病気など様々なことがきっかけでひきこもりは始まりますが、その背景には「エネルギーの低下」と強い「対人恐怖や集団恐怖」があると言われています。また、精神疾患が原因でない場合はゆっくり見守ったほうが良いとの意見もあり、ご本人の状態に合わせた対応を考えていく必要があります。

Q3. 周りはどうしたらいいの？

ひきこもりが始まると、ひきこもった原因や犯人探しに目がいきがちですが、本人の回復に役立つことは少ないと思われます。また、家族自身も先の見えない不安や焦りからつい言いすぎてしまい、本人との関係がこじれてしまうことも起こりがちです。本人の回復には、安心できるやりとりを増やしていくことが大切ですが、そのためには家族自身が不安や焦りを受け止めて安定できていることが必要になります。したがって家族だけで抱え込まず、相談機関などに相談しながら対応方法について一緒に考えていくことが良いでしょう。(M・Y)